

季刊 まち・コミ

2014年 秋号

● インフォメーション ● <http://park15.wakwak.com/~m-comi/>

【出石市民農園】 黒大豆の枝豆購入による応援をお願いしています。詳しくはチラシをご覧ください。



今月の注目記事 P1 浜の持続性を考えるための地域生活調査/P4 阪神・淡路大震災から20年 再建調査

浜の持続性を考えるための地域生活調査

—東日本大震災の三陸沿岸の町で、 学生有志と夏合宿 報告—

8月27日～29日、9月17日～29日に、学生有志と一緒に、宮城県石巻市雄勝町をフィールドに、まちづくりの調査合宿をしました（趣旨は「季刊まち・コミ2014年夏号」参照）。現場を歩き回り、感じると共に、7つの班に分かれて、浜の地区会長、仮設住宅のリーダー等に聴き取り調査を重ねました。その状況を報告します。

第1クール1日目（8月27日）

10:30に東北大学、東北工業大学、専修大学、首都大学東京、関西大学等の学生達が集まりました。また、学生達の学習をサポートするため、各大学の指導教官や、住民、各種専門家（都市計画コンサルタント、中小企業診断士等）総勢30人強が集い、3日間合宿調査が始まりました。



自己紹介やグループ分け集会の様子

まずは、自己紹介をし、7班に分かれ、調査準備等を行いました。

午後からは、各班分かれて聴き取り調査に繰り出しました。仮設住宅や地区リーダーのところへ向かいました。

当団体スタッフ宮定の担当した班は、波板地区でお話しを伺いました。お話しを聴く前に、1.住民の情景を語る言葉を、少しでも理解できるようにするため、2.学生の問題意識を改めて感覚として明確にするため、フィールドワーク等を行いました。学生は、震災前の住宅地図を持ちながら地区の現状を見て「ここに、住宅があったのですね。ここに住んでた人はどこにいったのだろうか」とイメージをふくらませ、調査対象を明確にしていきました。

波板地区は、4世帯のため、リーダー以外の住民にも集まって頂きました。最初は、全



聞き取り調査前に集落のフィールドワーク

員で自己紹介をし、お互い心をほぐし、学生達の興味に合わせて地域住民とのペア作りを行いました。その後は、分かれて聞き取りを行いました。



ペアに分かれて聞き取り調査

聞き取り調査終了後、集落の集いを高台移転完成後も維持するために挑戦している、地元の波板石の硯等への加工を見せて頂きました。



集落で採取できる波板石の加工の様子

夕方、食事や入浴を終えて、調査活動の拠点としている合宿所へ帰り、各班毎に、まとめ作業にかかりました。聞き取りやまとめ作業をすることが初めての学生もあり、深夜までパソコンに向かう班もありました。若い学生の力には感服です。また、各浜でのお話が盛り上がり、なかなか合宿所まで、帰ってこられない班もありました。



夜遅くまで続く、まとめ作業

第1クール2日目(8月28日)

フィールドワークや聞き取り調査に向かいました。

担当班は、昨日のリーダーからの聞き取りから、「(雄勝町よりも進んでいる)女川町の復興を見て欲しい」といった要望や、本日午後からの聞き取り予定者が、石巻市街地の仮設住宅に住んでいるため、聞き取りの精度を上げるために、女川町から、石巻市街、雄勝町の方が多く居住している内陸の仮設住宅等に実際に足を運び、現状を現地で確かめました。



午後からの聞き取り者(一時転出)の仮設住宅を探し当てた学生

雄勝町の震災前の人口が4,300人で、現在1,000人であるという現状から、転出している方の生活実態についてお聞きするのも大事だろうと思い、13:00から、午前中訪れた石巻市街地の仮設住宅へ転出されている方に、従前の波板地区でお話しを伺いました。昨日聴き取りをした方から紹介して頂きました。

前日と同じように、夜は合宿所で、まとめ作業をしました。聴いた話を他の班の人たちにも伝えたいと思ったのか、まとめ作業後は懇親会のようになり、各班のメンバーが混じり、情報交換をしていました。

第1クール 3日目(8月29日)

午前中は、前日までの2日間は、浜に行き聴き取りばかりの班もあったので、市街地(漁師が少ない雄勝町の中心部)に行き、まちづくりに取り組む住民に、これまでの生活再建の経緯を聴きました。



市街地にて説明を受ける学生達

正午に集まり、3日間のまとめの報告をしました。長年数々の被災地の研究をされている専修大学の矢根淳教授をはじめ、専修大学の先生方が、差し入れと共に来て下さり、調査後のアドバイスを頂きました。

第2クール

9月17～19日に第2クールを行いました。

1日目は第1クールの調査を生かすため、これまで聴き取った内容の確認から、今後の調査の方法や、調査合宿の目標の再確認をしました。

2日目は、第1クールに聴き取りさせて頂いた方々と継続的な関係をつくらうと、再訪しました。聴き取り時で話して下さった、昆布の作業をちょうどしていたので、見たり聞いたりするだけでなく、一緒に作業させていただきました。その中で、具体的に、海の中からとろろ昆布になるまでの過程をお聴きしました。

最後には、多くの保存加工した海産物を頂き、浜の物物交換の文化にも接しました。



昆布の根切りに挑戦する学生

聴き取り後の地域の方の反応

「じいちゃん、ばあちゃんの顔色が変わりました」と地区の副会長からお言葉を頂きました。調査合宿後の敬老会の日に、あるおばあちゃんは1時間半も前に集合場所に来られ、迎えのバスを待ちながら、別の調査で来ていた大学生とお話しを楽しんでいました。

今後

9月末にもう一度調査を行います。

今回参加した学生達等と継続的に、学びの場をつくっていければと思っています。同時に、それらの積み重ねも生かし、地域に生きる調査・研究を模索し、進めていきます。

【参考】

学生有志と地域を学ぶ合宿 - 三陸沿岸の漁村にて - (季刊まち・コミ 2014年夏号)

<http://machi-comi.wjg.jp/m-comi/magazine/pdf/14-07.pdf>

御菅西地区再建状況

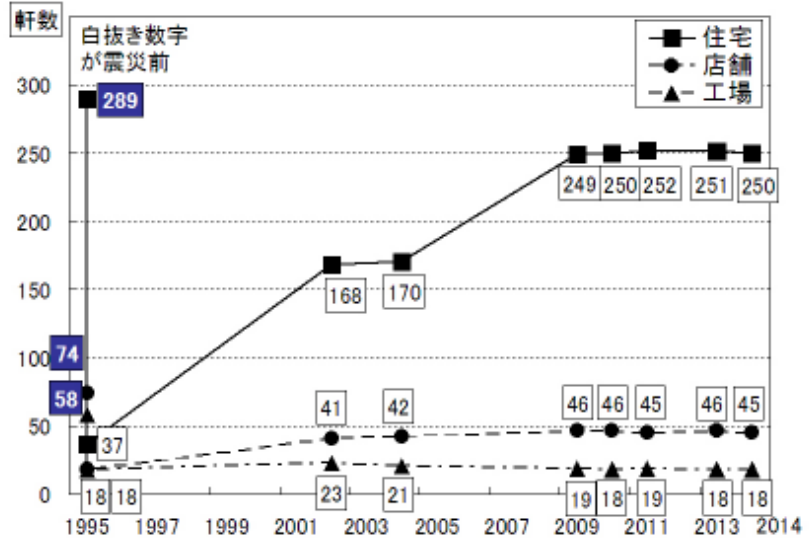
～阪神・淡路大震災から 20 年～

まち・コミでは、震災後のまちの変化を把握するため、地域再建調査を継続して行っています（参考資料）。今回は、2014 年 9 月 13 日に調査しました。

人口は戻りつつありますが、世帯数の約 3 分の 2 は、震災後から、御菅西地区で住まれている新住民です。店舗と工場は、一度地区外に出てしまうと増えない傾向にあります。昨年度との変化では、20 年目にして諸事情により、再建した住宅を手放した方もおられます。

建物用途別 軒数の変化

震災前（1995 年 1 月）



今回の調査（2014 年 9 月 13 日）



売物件になった住宅。内装工事の車。



店舗が転出。テナント募集中

参考資料 過去の調査結果はインターネットでご覧いただけます。

阪神・淡路大震災からの復興の状況の記録

<http://machicomi.blog42.fc2.com/blog-entry-594.html>



岩手県の古民家を台湾へ移築 - 大河文化基金会 -

台湾のパートナー邱明民さん(大河文化基金会 理事長)が、東日本大震災以降、中学生を台湾へ招待するなど、岩手県の皆さんと交流してきました。

その交流の繋がりで、岩手県西和賀町沢内村の古民家「清吉稲荷」を、台湾から大工を志す人々16名が来日し、日本の方々と協力しながら解体し、台湾へ移築することになりました。

当団体も協力しながら、10月中旬まで解体工事を行っています。10月4日・5日の茅降ろし等、ボランティアも募集されています。是非、西和賀町を訪れてみて下さい。

【参考】台日交流古民家移築事業(ブログ) <http://machicomi.blog42.fc2.com/blog-category-2.html>



古民家「清吉稲荷」



台日協力しながら解体工事



岩手県知事表敬訪問

大地のつぶやき

人に出会いモノに出会い自分を磨く

九月十九日～九月二十三日の間、宮城・岩手に行った。宮城は石巻周辺、雄勝町、女川町を巡った。内陸部で営業されている南三陸観光バス高橋社長と膝を交えての談話で借金を抱えながら奥さん、娘さんも事務所を手伝い、とても明るい雰囲気だった。雄勝町公民館の屋上に乗ったMKBのバス、横倒しになった数台のバスの写真があった。女川町は仮設「希望のかね商店街」の一角にある黄金タクシー木村社長を訪ねた。ご夫婦で神戸にいられて、タクシーや運送会社の復旧、復興過程を経営者から聞き取って帰られた。あの時は「勇気を頂きました」と語りながら入ってくる無線の応対に忙しく「運転手が足りない」とこぼしておられた。丁度女川町はサンマ祭りで大変な賑わいでした。二 川のU字溝を沢山並べて、とつかえひっかえサンマを焼いているが、飛ぶように捌けている。街は398号線より西側は土工事の真っ盛り、高く、高く盛られ、山際は削り取られ赤茶色になっているかと思えば、伐採が終わって、木の根っ子が残り、さあこれから削るぞと言わんばかりの山肌も見受けられた。

宮城県から岩手県西和賀町に入る。台湾のパートナー邱さんから西和賀町の通称清吉稲荷を台湾に移築したいとの話があつて地図で探すと、旧沢内村のある所ではないか。七、八年前にラジオ深夜便心の時代で「辺地医療四十年沢内村で学んだこと」で増田進医師の話がとつても熱く「沢内村」が耳の底に残っていた。昭和三十年代の村長と医師そして村民が一丸となつて「雪と貧乏と病氣」の三悪追放に情熱を傾け、悪循環からの脱却物語だった。昭和三十三年ブルドーザーによる除雪で雪の孤島から脱出を図り、昭和三十五年六十五才以上に国保の十割給付、翌年さらに拡大、一才未満児と六十才以上とした。昭和三十七年には乳児死亡率ゼロの偉業を達成する。深澤威雄村長と表裏一体で行動した高橋清吉さんを偲んで清吉稲荷と呼ばれる茅葺の古民家は確かに「生命尊重」の精神が宿っているように感じた。

まち・コミ活動報告 6/1～8/31

- 5/22-6/5 【復興支援】東北行き
- 6/3 【研修受入】仙台より御蔵視察受入
- 6/14・15 【地域交流】出石市民農園
- 6/11 【地域支援】NPO相談受入
- 6/17-7/1 【復興支援】東北行き
- 6/27 【講師派遣】若林区復興の輪ミーティング神戸視察（コミュニティ・戸田）
- 7/3 【講師派遣】徳島県美波町にて（震災復興・宮定）
- 7/5・6 【地域交流】出石市民農園
- 7/9-7/24 【復興支援】東北行き
- 7/18 【復興支援】若手人材交流会参加（災害復興学会）
- 7/18 【研修受入】陸前高田より御蔵視察
- 7/19-21 【復興支援】関東にて復興支援相談と視察
- 7/25 【勉強会】第 22 回御蔵学校
- 7/28- 【復興支援】東北行き
- 8/1 【講師派遣】にいがた市民大学にて（復興まちづくり・田中）
- 8/4 【地域交流】出石市民農園
- 8/5-8/20 【復興支援】東北行き
- 8/21 【震災学習】震災体験学習打合せ
- 8/26- 【復興支援】東北行き
- 8/27-29 【復興支援】雄勝調査合宿第 1 クール
- 8/30 【講師派遣】関西アセスメント協会にて（BCP・田中）

ご支援、ありがとうございます。6/1～8/31(新規・継続) 順不同・敬称略

【正会員】藤原恵(広島県) 【賛助会員】宇野健一(東京都) 浅野宏(神奈川県) 齊木崇人(兵庫県) 渋谷光延(兵庫県) 照屋さつ子(兵庫県) 福留邦洋(宮城県) 橋本光穂(兵庫県) 末正盛隆(兵庫県) 六ノ坪合資会社(兵庫県) 小林郁雄(兵庫県) 上田耕蔵(兵庫県) 住田功一(大阪府) 田中邦彦(兵庫県) 和田幹司(兵庫県) 舟橋國男(大阪府) 津久井進(兵庫県) 大久保洋子(兵庫県) 北島繁昭(埼玉県) 大谷良心(奈良県) 万波一朗(東京都) 津田四郎(兵庫県) 西條遊児(兵庫県) 株式会社ミック(兵庫県) 田中貴宏(広島県) 街角企画株式会社(大阪府) 竹内鉄工所(兵庫県) 藤原柄彦(兵庫県) 日本精機株式会社(大阪府) 笹岡賢司(静岡県) 橋本敏子(千葉県) 西堀喜久夫(愛知県) 船越洋平太(京都府) 早坂文明(宮城県) 原田元基(兵庫県) 株式会社コーノ(岐阜県) 樽本憲昭(兵庫県) 北後明彦(兵庫県) 森山正和(大阪府) 石川光晴(宮城県) 高宮城幸雄(兵庫県) 入口方(兵庫県) 弘本由香里(大阪府) 横田尚俊(山口県) 大東石油株式会社(兵庫県) 有限会社ミナト興産(兵庫県) 田中淑子(福岡県) 陳浩明(大阪府) 佐藤那央(兵庫県) 下土居希(東京都) 田間泰子(大阪府) 吉川俊雄(山口県) 関西キリンビバレッジサービス株式会社神戸営業所(兵庫県) 谷川一成(兵庫県) 一般社団法人全国中小貿易業連盟(大阪府) 全国中小貿易業大阪連盟(大阪府) 服部光晴(奈良県) 吉川忠寛(東京都) 佐藤友一(京都府) 吉田昌(大阪府) 鈴木有(滋賀県) 【寄付】角谷陽子(大阪府) 延足圭祐(岩手県) 清水光久(兵庫県) 大久保妙子(兵庫県) 末正盛隆(兵庫県) 六ノ坪合資会社(兵庫県) 添田朝樹(兵庫県) 佐藤康夫(大阪府) 田中邦彦(兵庫県) 大谷良心(奈良県) 西岡潤二(東京都) 津田四郎(兵庫県) 藤原柄彦(兵庫県) 笹岡賢司(静岡県) 早坂文明(宮城県) 横田尚俊(山口県) 日本精機株式会社(大阪府) 大東石油株式会社(兵庫県) 陳浩明(大阪府) 宮嶋由紀子(東京都) 今井照(福島県) 【購読会員】平山京子(兵庫県)

【協力】社団法人シャンティ国際ボランティア会(東京都) 株式会社兵庫商会(兵庫県神戸市) 味六亭(宮城県石巻市)

会員募集中!

認定NPO法人申請を目指し、より多くの方に賛助会費もしくは3,000円以上のご寄付をお願いしています。認定NPO法人になると、寄付者は税制上の優遇措置を受けることができますようになります。(正会員と購読会員は寄付者に含まれません)

さらに活発な活動を行うため、会員を募集し、資金面でのご支援をいただいています。

また、会員は1年更新とさせていただきます。現在会員の方も時期がきましたら、更新をお願いいたします。(期限は「季刊まち・コミ」郵送時の封筒の、宛名ラベルに記載していますので、ご確認ください。)

会員種別

賛助会員

当法人の事業を、会員として賛助してくださる方
年会費：5,000円(学生3,000円) 総会議決権：なし
正会員

当法人の目的に賛同し、ご入会くださる方
年会費：10,000円 総会議決権：あり

入会申込書のご提出をお願いしております。

購読会員

当法人発行の「季刊まち・コミ」購読希望の方
年会費：3,000円 総会議決権：なし

編集後記 神戸元町にできた「陳舜臣アジア文藝館」がオープンして4カ月。当団体理事の田中保三も当番に入っています。ぜひお越し下さいませ。

田中の担当日は事前にご確認ください。(戸)

お振り込み先

名称 特定非営利活動法人まち・コミュニケーション

【郵便振替】

口座番号 00950-3-42788

【三井住友銀行・長田支店】

普通口座 7669623

ご寄付もよろしくお願いたします

2014年9月1日発行 no.8

編集/発行 特定非営利活動法人
まち・コミュニケーション

事務所 〒653-0014
兵庫県神戸市長田区御蔵通5-211-4-101(みくら5)
TEL 078-578-1100 / FAX 078-576-7961

東北出張所 〒986-0859
宮城県石巻市大街道西1-14-101 味六亭 相澤様方

e-mail m-comi@bj.wakwak.com
URL http://park15.wakwak.com/~m-comi/

ホームページからバックナンバーをご覧いただけます